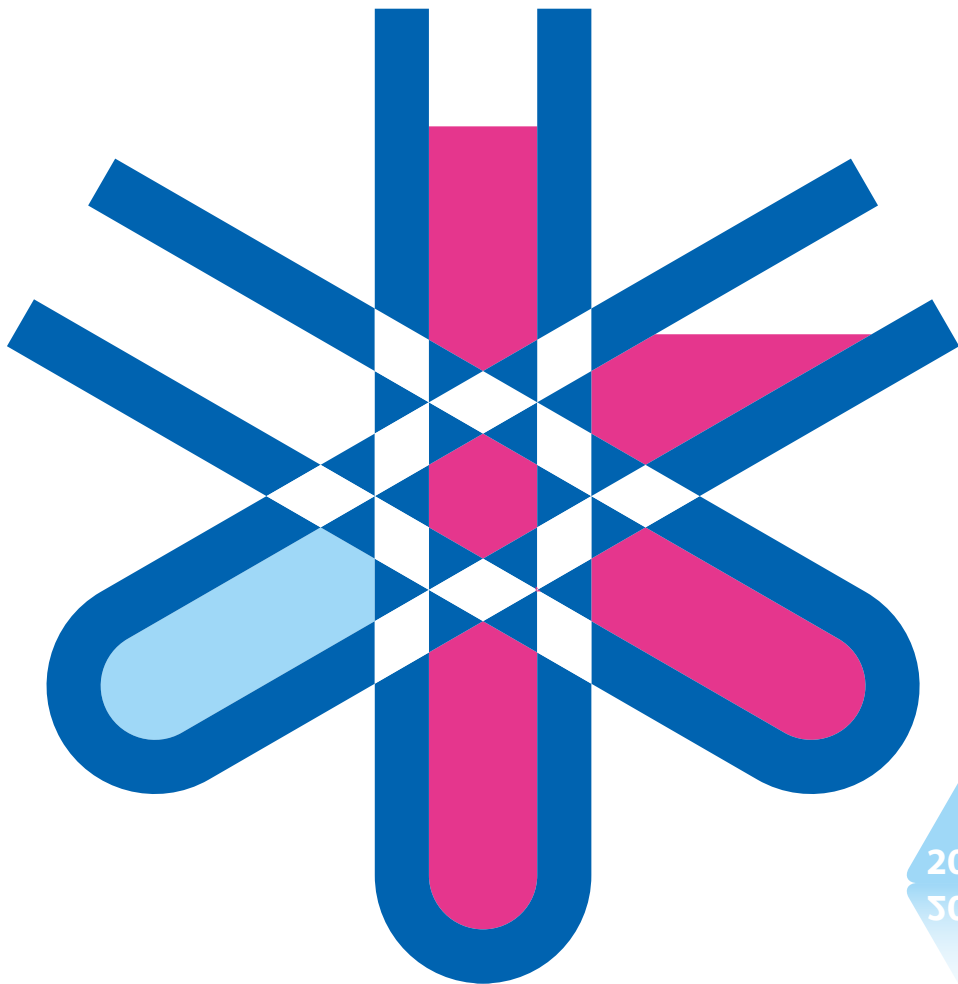


横查情報月報



3

3

横浜市衛生研究所

令和8年3月号 目次

【検査結果】

アレルギー物質を含む食品検査（令和7年度）	1
器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和7年度）	3

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年2月）	5
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和8年2月）	6
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

アレルギー物質を含む食品検査（令和7年度）

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、症例数が多いものや重篤度の高いもの8品目（卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ）が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入（コンタミネーション）等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和7年度に、医療局食品専門監視班が市内の食品製造施設等から収去した食品54検体並びに各区福祉保健センターが市内の保育所及び小学校等から収去した特定原材料除去食69検体、合計123検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品18検体（菓子類8検体、冷凍食品類8検体、そうざい類2検体）並びに市内の保育所及び小学校等から収去した卵除去食等35検体（そうざい類32検体、菓子類3検体）、合計53検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性（10ppm未満）でした（表1）。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
そうざい類（スープ、パスタ等）	34	0	-	-
菓子類（ケーキ、ビスケット等）	11	0	-	-
冷凍食品類（焼きそば、タルト等）	8	0	-	-

2 乳の検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品18検体（菓子類8検体、冷凍食品類8検体、そうざい類2検体）並びに市内の保育所及び小学校から収去した乳除去食等24検体（そうざい類23検体、菓子類1検体）、合計42検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、全て陰性（10ppm未満）でした（表2）。

表2 乳の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
そうざい類（カレー、パスタ等）	25	0	-	-
菓子類（ケーキ、ビスケット等）	9	0	-	-
冷凍食品類（焼きそば、タルト等）	8	0	-	-

3 小麦の検査

市内の食品製造施設等から収去した原材料に小麦を使用していないとされる食品18検体(菓子類8検体、冷凍食品類8検体、そうざい類2検体)並びに市内の保育所及び小学校から収去した小麦除去食等10検体(そうざい類8検体、菓子類2検体)、合計28検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
そうざい類(カレー、パスタ等)	10	0	-	-
菓子類(ケーキ、ビスケット等)	10	0	-	-
冷凍食品類(焼きそば、タルト等)	8	0	-	-

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウエスタンブロット法とPCR法などがあります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウエスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに、くるみ」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。

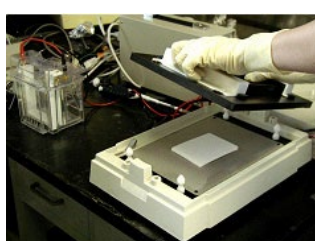
スクリーニング検査



ELISA法

(Enzyme Linked Immuno Sorbent Assay
酵素免疫測定法)

確認検査



ウエスタンブロット法
(卵、乳)



PCR法
(小麦、そば、落花生、
えび、かに、くるみ)

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

器具及び容器包装の規格試験の検査結果（令和7年度）

食器や調理器具、包装材などは、食品と直接接触して使用されることから、一部が剥離又は化学物質が溶出して食品が汚染される可能性があります。そのため食品に接触する器具及び容器包装については食品衛生法で規格が設定されており、この規格に適合している必要があります。

令和7年度に各区福祉保健センターが市内で収去した合成樹脂製の容器包装等25検体について、器具及び容器包装の規格試験を行いました(表1)。

検査の結果、すべての検体が規格に適合していました。

表1 器具及び容器包装の規格試験の検体数と項目数(令和7年度)

材質	検体	検体数	検査項目数	検査項目							
				一般	材質試験			溶出試験			
				着色料	カドミウム	鉛	重金属	過マンガン酸カリウム消費量	アンチモン	ゲルマニウム	蒸発残留物
ポリエチレン樹脂	フリーザーバッグ、ポリ袋手袋等	10	60	10	10	10	10	10			10
ポリプロピレン樹脂	漬物樽、ボウル、ストロー、フードコンテナ、お弁当シート等	9	54	9	9	9	9	9			9
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂	まな板シート	1	6	1	1	1	1	1			1
ポリエチレンテレフタレート樹脂	クリアカップ、デザートカップ	5	40	5	5	5	5	5	5	5	5
合計		25	160	25	25	25	25	25	5	5	25

【規格について】

器具及び容器包装又はこれらの原材料は、許可された着色料以外が溶出しないように規定されています(原材料一般の規格)。また、材質・使用用途別に規格が設定されており、材質試験と溶出試験を実施して評価します。材質試験は検体中に含まれている化学物質、溶出試験は検体から溶け出す化学物質を測定します。参考に、今回検査した材質の規格を示しました(表2)。

表 2 器具若しくは容器包装又はこれらの原材料の一般及び材質別規格

種類	項目		規格
一般	着色料		食品衛生法施行規則別表第 1 掲載品目に掲げる着色料以外の化学的合成品たる着色料を含むものであってはならない。ただし、着色料が溶出または浸出して食品に混合するおそれがないように加工されている場合はこの限りではない。
ポリエチレン及びポリプロピレン樹脂*	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		蒸発残留物	30 μ g/mL 以下
ポリエチレンテレフタレート樹脂	材質試験	カドミウム	100 μ g/g 以下
		鉛	100 μ g/g 以下
	溶出試験	重金属	鉛として 1 μ g/mL 以下
		過マンガン酸カリウム消費量	10 μ g/mL 以下
		アンチモン	0.05 μ g/mL 以下
		ゲルマニウム	0.1 μ g/mL 以下
蒸発残留物	30 μ g/mL 以下		

* ポリエチレン単一の樹脂とポリプロピレン単一の樹脂も、同一の規格です。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年2月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和8年2月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和8年2月に追加・更新した主な記事は、3件でした。

掲載月日	内容
2月5日	横浜市インフルエンザ流行情報第5週
2月13日	横浜市インフルエンザ流行情報第6週
2月16日	感染症に気をつけよう(2月号)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

ソーシャルメディア

https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年2月)

委員会開催日(2026年2月26日)時点のデータになります。

《今月のトピックス》

- 麻しんの国内感染例の報告がありました。
- インフルエンザは年明けに2回目のピークを迎えました。依然流行警報の値を上回っています。
- 感染性胃腸炎は減少傾向ですが、例年よりも高い値で推移しています。
- 梅毒は20～40歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く報告されています。10歳代の報告も見られます。

◇ 全数把握の対象 <2026年1月19日～2026年2月22日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	6件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	3件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	30件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	百日咳	26件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件	麻しん	2件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～40歳代で、O血清群はO128が3件、O157が1件、O不明が2件です。すべて無症状病原体保有者で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
2. **E型肝炎**:30歳代～60歳代で、無症状病原体保有者が2件です。経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件です。
3. **A型肝炎**:20歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されます。
4. **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、すべて肺炎型です。感染経路等は水系感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
5. **ウイルス性肝炎**:20歳代で、病型はB型(ワクチン接種歴不明)です。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代で、感染経路は手術部位関連感染と推定されています。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代～80歳代で、血清型はA群が3件、B群が1件、G群が3件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が5件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、病型はAIDSです。感染経路は性的接触(同性間)と推定されます。
9. **ジアルジア症**:50歳代で、感染経路等不明の報告です。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳代～60歳代で(ワクチン接種歴4回1件、不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴1回1件、無2件、不明5件)で、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が6件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:30歳代～40歳代(ワクチン接種歴不明3件)で、臨床診断例1件、検査診断例2件です。院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
13. **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が7件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間18件、同性間1件、詳細不明7件)、感染経路等不明の報告が4件です。
14. **播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等は不明です。
15. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回4件、3回1件、1回3件、無1件、不明17件)で、家族内感染と推定される報告が10件、感染経路等不明の報告が16件です。
16. **麻しん**:2件とも20歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等は不明です。

報告週対応表	
2026年第 4週	1月19日～1月25日
第 5週	1月26日～2月 1日
第 6週	2月 2日～2月 8日
第 7週	2月 9日～2月15日
第 8週	2月16日～2月22日

◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

1 インフルエンザ

2025年第43週(10月20日～10月26日)

日に流行注意報(10.00)、第45週

(11月3日～11月9日)に流行警報

(30.00)の発令基準を超えました。その

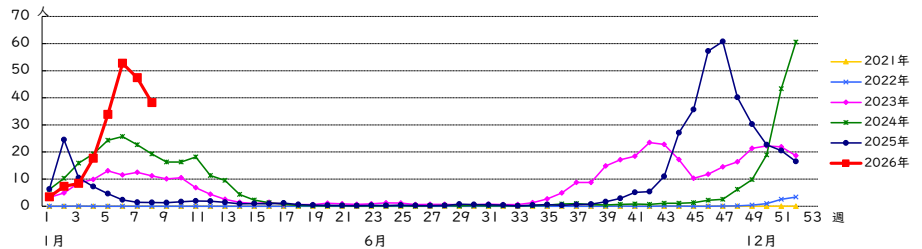
後増加が続き、第47週(11月17日

～11月23日)に60.78で1回目のピーク

を迎えました。その後は減少

傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第4週に流行注意報、第5週に流行警報の基準を再び超えました。

第6週に52.73で2回目のピークを迎え、以降減少しています。第8週は38.25です。



2 感染性胃腸炎

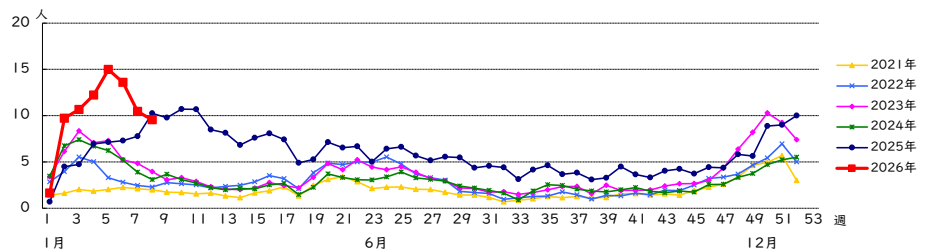
2025年第46週(11月10日～11月

16日)以降増加傾向が続き、2026

年第5週に14.98でピークを迎

えました。以降は減少傾向で、第8

週は9.54です。



3 性感染症(2026年1月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:19件	女性:2件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2026年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026年第4週～第8週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点189件、小児科定点2件、定点医療機関2件、定点医療機関外1件でした。

2月25日現在、表に示した各種ウイルスの分離33株と遺伝子113件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026年第4週～第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	消 化 器 症 状
	インフルエンザウイルス AH3	7 5	
インフルエンザウイルス A (亜型未同定)	- 1		
インフルエンザウイルス B (ビクトリア系統)	26 -		
インフルエンザウイルス B (系統未同定)	- 66	- 3	- 1
ライノウイルス	- 12		
SARS-CoV-2	- 11		
RS ウイルス	- 4	- 4	
ヒトメタニューモウイルス	- 3		
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	- 1		
パラインフルエンザウイルス1型	- 1		
アデノウイルス	- 1		
合 計	33	-	-
	105	7	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2026年第4週～第8週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症3件、マラリア2件、細菌性髄膜炎1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎4件、「ARI定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第4週～第8週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	3	O128:H2 OUT:H21 OUT:H+	VT1 VT1 VT1	(1) (1) (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8	A群溶血性レンサ球菌 A群溶血性レンサ球菌 B群溶血性レンサ球菌 G群溶血性レンサ球菌	TB3264 T型別不能 I b型	(1) (2) (2) (3)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	<i>Haemophilus influenzae</i> a型 <i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能		(1) (2)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	<i>Citrobacter freundii</i> complex		(1)
	基幹定点	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> Treguier (1)	

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	3	喀痰	レジオネラ属菌 培養陰性(3)
	マラリア	2	血液 塗抹標本	<i>Plasmodium falciparum</i> 遺伝子陽性 (1) <i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 (1)
基幹定点	細菌性髄膜炎	1	髄液	細菌16SrRNA遺伝子 陰性(1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	A群溶血性レンサ球菌 T4 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (3)

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	百日咳菌遺伝子 陰性 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (3) 百日咳菌培養 陰性

【 微生物検査研究課 細菌担当 】